2024-3-20

モネ： 睡蓮作品日本での鑑賞の経緯と作品の軌跡 ＜モネ：その４＞

山本 雅晴

今年はモネの「印象 日の出」が公開された第１回印象派展が開催されてから 150 年の節目の年である。また、モネがジヴェルニーに土地を買い足し、睡蓮の庭を造り始めて約 130 年となる。このような因縁からか昨年から今年にかけてモネ展やモネの睡蓮展が企画されている。以前にも紹介したが、モネと日本とのかかわりは 1880 年代にさかのぼる。主なかかわりを列挙する。

① **林忠正**(1853~1906)から 1880 年代にモネが浮世絵を多数購入し、林はモネ作品を入手。

② **黒木三次**（1884～1944）**・竹子**（1895～1979）夫妻で横浜正金銀行員であった 1918 年に大蔵省の委嘱によって国際金融情勢を調査するため渡仏し、1919 年 1 月にパリに到着した。竹子夫人は松方幸次郎の姪である。黒木夫妻はモネ作品を好み、1919～22 の在仏中にジヴェルニーのモネ邸宅を何回も訪問しモネと懇意になり、モネと家族ぐるみの付き合いをしていた。竹子はモネに孫娘のように可愛がられていたという。黒木夫妻はモネが手元に置き譲ることを拒んでいた作品を竹子夫人の“オネダリ上手”に負けて 4 点の貴重な作品を譲り受けている。その最初は ⓐ「雪中の家とコルサース山」W.1404・・現在、上原近代美術館所蔵 ⓑ 「睡蓮の池」W.1715・・現在、アーティゾン美術館所蔵 ©「ポプラ・秋の印象」W.1306・・個人所蔵。ⓓ「黄昏、ヴェネティア」W.1769・・現在、アーティゾン美術館所蔵。特に「黄昏、ヴェネティア」は亡くなったアリス夫人との思い出があり、モネにとっても最後の作画旅行の作品で、譲るのを断ったが、黒木が竹子からモネに頼ませると仕方なく譲ってくれたという。

③ **児島虎次郎**（1881～1929）が在仏中の画家斎藤豊作（1880～1951）と 1921 年 10 月 21 日に汽車でジヴェルニーのモネ宅を訪問し、大原孫三郎の依頼でモネ作品の購入を希望していたが、この時は適当な作品がないと断られ、その 1 か月後に黒木三次とともに訪問し、「睡蓮」W.1689 を 2 万フランで購入している。

④ **松方幸次郎**（1865～1950）は黒木の紹介で 1921 年の春とその年の秋の 2 度、ジヴェルニーのモネを訪れている。美術史家の矢代幸雄（1890～1975）や画家の和田英作（1874～1959）も同行している。この 2 人は作品購入の相談役として多くの画廊も訪れている。しかし、モネ邸における松方の大胆な作品購入について驚きを示している。この時の作品の購入は 15～18 点で約 100 万フラン（現在の金額で約 10 億円)。画廊で購入したものも合わせて松方コレクションのモネ作品は３４点位といわれている。現在、国立西洋美術館に 13 点と国内の美術館に 4 点位がある。

余談：1921 年 9 月 21 日のモネ邸訪問時に松方は隠し玉としてモネの好物である“とびっきりのブランデー”；“1808 年製のナポレオン“を持参してモネに渡したら、喜んでそれを持って”ナポレオン“、”ナポレオン“といって歩き回った。・・矢代幸雄著「芸術のパトロン」新潮社、1958 年。

モネから直接購入した作品の中でブランデーの効果が高かったのは次のものではなかろうか？

A.「睡蓮、柳の反映」1916, W.1971, 199.3x424.4：オランジュリー美術館に展示予定だった作品の習作。

B.「睡蓮」1916, W.1800,200x201, オランジュリー美術館へ寄贈の大装飾画の初期習作で松方の購入が決まった時に署名と年を揮毫したとのこと。これらの作品はオランジュリーで公開されるまで門外不出！

C.「舟遊び」1887, W.1152, 145.5x133.5 モネは似た構図の何枚か作品を描いた場合、必ず 1～2 枚は自分の手元に所有していた。類似作品は 7～8 枚あるが、松方の購入した作品は秀逸。

D.「陽を浴びるポプラ並木」1891, W.1305, 93x73.5, このシリーズは２３点位リスト・アップされているが、モネの遺産としてマルモッタン・モネ美術館に寄贈された作品にはない。

E.「積み藁」1885, W.994, 64.5x80.4, (現在：大原美術館所有）積み藁シリーズの前段階の作品、絵の中に息子のジャンも描かれている。

F.「ルーアン大聖堂」1893, W.1361, 106x73 このシリーズは約 30 点あり、マルモッタン・モネ美術館にも 1 点あるが、松方が購入した作品の方が見栄えがする。旧松方コレクションで現在は海外の個人所有？・戦前と 1950 年以降の日本のコレクション・・・日本にある、または以前に日本にあったモネ作品の一覧表はウィキペディアのモネの項にある。しかし、個人所蔵でここに掲載されていない作品も多数ある。

このリストによれば、国内の美術館所蔵のモネ作品数は 116 点、個人所蔵は 13 点、かって日本にあった作品数は 15 点である。このうち睡蓮関連作品は美術館：25 点、個人：0、かってあった:6 点である。睡蓮関連作品について、美術展に匿名で出展されている作品を含めて小生が調査したところ、41 点あった。これらのうち現在所蔵不明の作品が多数ある。過去に日本で展示された当時、国内所蔵のモネの睡蓮作品の希少なものを下図にいくつか紹介する。

また、1960 年以降に蒐集した日本の主な美術館の睡蓮関連作品の所蔵は、ポーラ美術館：２、地中美術館：６、アサヒビール大山崎山荘美術館：７　である。

1．W.1723,1907 年、2004-2, 文化村ミュージアム, 当時 泉美術館所蔵

2.W.1786,1914-17 年、2004-2, 文化村・ザミュージアム,個人

3．W.1893/2,1919 年、2014 年展覧会,個人 2016 年クリスティーズへ出品・競売

4．元 MOA 所蔵(1978~2014) → ハッソ・プラットナーに売却 /バルベリーニ美術館で展示、2023-10～ 日本の展覧会へ W.1884, 1917-19 年、